

第116回 歯科医師国家試験問題解説 正誤表

| 頁   | 項目                 | 誤  | 正  | 訂正日        |
|-----|--------------------|--|--|------------|
| 3   | 116A2              | <p><b>解き方</b><br/>血清中の免疫グロブリンはIgG、<b>IgM</b>、<b>IgA</b>、IgD、IgE の順に多いため、<br/>～<br/><b>解説</b><br/>× a: IgAは血清中では<b>IgM</b>の次に多く含まれ、唾液中には二量体のsIgA(分泌型IgA)が多く含まれ、粘膜免疫に関与する。しかし、歯肉溝滲出液中で最も多い免疫グロブリンではない。<br/>× e: IgMは<b>IgG</b>の次に多く血清中に含まれる免疫グロブリンである。五量体で、一次免疫応答で最初に産生される抗体である。</p> | <p><b>解き方</b><br/>血清中の免疫グロブリンはIgG、<b>IgA</b>、<b>IgM</b>、IgD、IgE の順に多いため、<br/>～<br/><b>解説</b><br/>× a: IgAは血清中では<b>IgG</b>の次に多く含まれ、唾液中には二量体のsIgA(分泌型IgA)が多く含まれ、粘膜免疫に関与する。しかし、歯肉溝滲出液中で最も多い免疫グロブリンではない。<br/>× e: IgMは<b>IgA</b>の次に多く血清中に含まれる免疫グロブリンである。五量体で、一次免疫応答で最初に産生される抗体である。</p> | 2023/10/5  |
| 68  | 116A58<br>b肢、c肢解説  | <p>Ob: <b>診断用ワックスアップを用いることで、～最終補綴装置の形態について共通認識をもつことができる。</b></p> <p>Oc: <b>診断用ワックスアップにより～、過不足なく歯質の削除ができる。</b></p>  | <p>Ob: <b>診断用ワックスアップにより～、過不足なく歯質の削除ができる。</b></p> <p>Oc: <b>診断用ワックスアップを用いることで、～最終補綴装置の形態について共通認識をもつことができる。</b></p> <p>※b肢とc肢の本文を入れ替え</p>  | 2025/5/9   |
| 123 | 116B2<br>解き方(画像所見) | →①～③は <b>重曹</b> 扁平上皮を構成しており、④も合わせて嚢胞壁であることがわかる   | →①～③は <b>重層</b> 扁平上皮を構成しており、④も合わせて嚢胞壁であることがわかる   | 2023/9/19  |
| 214 | 116B73<br>c肢 解説    | × c: 先天性表皮水疱症は外胚葉性疾患であり、皮膚症状が主体である。中胚葉由来である心血管系には形態異常を認めない。口腔内の症状として、 <b>多数歯先天欠損</b> 、エナメル質形成不全がある。  | × c: 先天性表皮水疱症は外胚葉性疾患であり、皮膚症状が主体である。中胚葉由来である心血管系には形態異常を認めない。口腔内の症状として、エナメル質形成不全、 <b>多発性齲蝕</b> などがある。  | 2024/1/10  |
| 432 | 116D58<br>+ α      |  <p><b>根管形成用バー</b></p>   | <p>(画像を削除)</p> <p>※画像は根管形成用バーではなくゼックリアバーであるため</p>  | 2023/11/15 |